

第46回日本・ASEAN経営者会議 完全オンラインで初のAJBM ウィズ・コロナの日本と ASEANの連携の可能性を議論



3月17日、マレーシア日本経済協議会と経済同友会との共催により第46回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)が完全オンラインにて開催された。今回は、「ウィズ／アフターコロナ下の新しい普通を見据えた日・ASEANの新たな関係」がテーマ。デジタル、スタートアップ領域での日本・ASEAN連携、特にコロナ危機による環境変化への対応に焦点を当てて、日本とASEAN各国の企業経営者、およそ300人が意見交換を行った。日本からは、櫻田謙悟代表幹事、林信秀日・アジア交流PT委員長をはじめ会員など約120人が出席した。

全体概要

第46回AJBMは、前回会議で設定した「デジタル、スタートアップ」領域での日・ASEAN連携という課題を踏襲した上で、コロナ危機による変化に日・ASEAN双方の企業がどのように立ち向かい、新しい可能性を見いだそうとしているのかについて、最前線の取り組みに焦点を当てて、プログラムを構成した。具体的には、(1)ニューノーマルと社会的変化、(2)産業・バリューチェーンへのインパクト、(3)社会課題とイノベーションという領域における日・ASEANの新たな関係について議論した。

開会式

最初に、アズマン・ハシム議長、そして櫻田謙悟代表幹事が開会挨拶。ハシム氏は第46回AJBMをオンラインで初めて開催できることを歓迎し、今回のパンデミックが明らかにした日本とASEANの関係をさらに強化する可能性とその協力への期待を表明した。櫻田代表幹事は、オンライン開催の利点を活かし、300人を超える方に出席いただいたことを踏まえ、デジタル時代の新しい交流のあり方を模索したいと今後の会議への期待を語った。そして、イ

ノベーションを起こし、新しい経済社会を築くことは企業経営者の責任であり、日本は、イノベーションの社会実装で先行するASEANから学び、一緒に成長し、切磋琢磨をしていきたいと主張した。また、会議の基調講演を、ASEANの経済発展を支えてきたリム・ジョクホイ ASEAN 事務総長と中尾武彦みずほ総合研究所理事長(前アジア開発銀行総裁)よりいただいた。リム氏は、コロナ禍からの回復の鍵は、ASEAN 経済共同体(AEC)内における民間企業のコラボレーションが不可欠であることを強調した。中尾氏は、ASEAN 諸国の過去の発展の基盤を振り返りながら、コロナ禍収束後の新たなチャンスと日本とASEANの新たなパートナーシップについて期待を示した。

最後に、林信秀共同議長より、会議テーマとプログラムの背景にある問題意識を説明。また、米中対立によって企業が経済安全保障面からグローバル



櫻田謙悟代表幹事



林信秀共同議長

サプライチェーンの見直しを余儀なくされ、デジタル化の進展やコロナ禍という大きな環境変化の中で、新たな日本とASEANの関係を再構築していくことが重要であること、そして、今回のAJBMが日本とASEANで事業を展開するスタートアップ企業を含む多くの経営者が相互に出会い、ネットワークを生む場として役に立つことを期待すると述べた。

全体会議 1

「『新しい普通』の下での社会の姿と新しいビジネス機会」がテーマ。遠藤信博副代表幹事(日本電気会長)は、「ICTの急速な進歩により人間社会は大量のデータを瞬時に収集・処理して、全体最適の価値を得る能力を獲得した。これが『デジタルの力』の本質であり、これからのニューノーマルの基礎となる」とし、「アジア地域は、共通の目標を持って全体最適を目指す一つのグループで



遠藤信博副代表幹事

あるべき」として、デジタルの力による日本とASEANのパートナーシップの強化を強調した。

島田太郎東芝執行役上席常務最高デジタル責任者は、東芝が目指すCPS (Cyber Physical Systems) テクノロジーについて説明。CPSは、実世界(フィジカル)におけるデータを収集し、サイバー世界でデジタル技術などを用いて分析し、活用しやすい情報や知識とし、それをフィジカル側にフィードバックすることで、付加価値を生み出す。その具体例として「スマートシート」などの事業を紹介した。その他、フィリピンのアヤラコーポレーション社長兼COOのフェルナンド・ゾベル・デ・アヤラ氏は、ニューノーマルがもたらす三つの重要な機会として、再エネへの投資とデジタルへの投資、中小零細企業への機会を提供すると説明した。

全体会議 2

「コロナ禍を踏まえた産業バリューチェーンの再構築」がテーマ。十時裕樹ソニー副社長兼CFOは、近年のソニーの事業戦略の変遷について説明。六つのビジネスセグメントの売上高と営業利益が過去9年間にわたり大きく変わってきたことや、コロナ禍においても俊敏性と柔軟性が最も重要な成功要因であること、多様な事業ポートフォリオが危機をチャンスに変えるのに役立っていると主張した。

田川丈二日産自動車専務執行役員CSOは、社会のメガトレンドとして、地球温暖化、高齢化、都市化の三つがあり、それぞれのソリューションとしては、電気自動車、自動運転、コネクテッド



オンラインでの全体会議

モビリティサービスがあると説明。電気自動車は、社会エネルギーインフラとしての価値やASEANにおける電気自動車の高い需要も紹介。マレーシアからは、エアアジアCEOのトニー・フェルナンデス氏が登壇し、危機を何度も乗り越えてきた経験と事業の多角化についての展望を示した。

全体会議 3

「社会課題克服に向けたイノベーションの共創」をテーマに、スタートアップ企業の事例紹介を行い、間下直見副代表幹事(ブイキューブ取締役社長CEO)がモデレーターを務めた。日本からは、台風並みの強風でも発電できる風力発

電設備を開発する「チャレナジー」、個人の腸内環境に合わせたアプローチを行うことで健康維持を目指す「メタジェン」、カメラの映像をクラウド化する「セーフィー」などが登壇した。

閉会式では、三つの全体会議のモデレーターからの報告を受け、ハシム議長と林共同議長の総括と閉会の挨拶で会議が終了した。

ネットワーキング・セッション

会議閉会后、初めての試みとして、オンライン上に関心分野ごとのブレイクアウトルームが設置され、登壇者と一般の参加者を合わせ、約30人が参加し、質疑応答や懇談が行われた。

第46回日本・ASEAN経営者会議(AJBM)プログラム概要 2021年3月17日(役職は開催当時)

■開会式

開会挨拶: アズマン・ハシム 第46回AJBM 議長
櫻田 謙悟 経済同友会 代表幹事

基調講演: リム・ジョクホイ ASEAN 事務総長
中尾 武彦 みずほ総合研究所 理事長(前アジア開発銀行 総裁)

導 入: 林 信秀 第46回AJBM 共同議長

■全体会議 1: 「新しい普通」の下での社会の姿と新しいビジネス機会

※以下、日本企業・団体のみ掲載

●コロナ危機からの回復、新しい環境への適応に伴うビジネス機会

遠藤 信博 日本電気 会長
島田 太郎 東芝 執行役上席常務最高デジタル責任者

■全体会議 2: コロナ禍を踏まえた産業バリューチェーンの再構築

●日本企業の製造業バリューチェーン戦略の変化

十時 裕樹 ソニー 副社長兼CFO
田川 丈二 日産自動車 専務執行役員 CSO

●ASEAN企業の新たな地域戦略

■全体会議 3: 社会課題克服に向けたイノベーションの共創

モデレーター: 間下 直見 ブイキューブ 取締役社長CEO

●スタートアップ・行政による取り組み紹介

大坂 吉伸 チャレナジー 取締役
野間口 達洋 メタジェン 国際事業部 マネージャー 兼メタジェンシンガポール代表取締役社長CEO
佐渡島 隆平 セーフィー 代表取締役
山室 芳剛 経済産業省 アジア新産業共創政策室長

■会議報告・総括

会議報告: 間下 直見 ブイキューブ 取締役社長CEO
閉会挨拶: アズマン・ハシム 第46回AJBM 議長
林 信秀 第46回AJBM 共同議長

■ネットワーキング・セッション